ホスピスケアと在宅ケア（Hospice and Home Care）投稿規定

本誌は、日本ホスピス・在宅ケア研究会の機関誌です。本会の目的に沿うものであれば、医療関係者（医療従事者、患者、家族、その他）のみならず、一般市民や社会学・教育・法学・宗教等、どのような領域の著者からの投稿も歓迎します。原稿は、原著、症例（症例報告、経験例等）、論説、論評、総説、提言、講座、評論、書評、手紙、他どのような原稿でも、患者（および家族）ケアに関連あるものは歓迎します。また、本誌掲載論文に対する読者の意見を歓迎します。意見（手紙）の内容によっては、対象著者との応答も掲載します。誌上討論も重要な意見交換の場です。積極的な意見表明を期待します。

投稿にあたっては「投稿規定」を参照してください。どのような形式の論文も受け付けますが、掲載様式は編集部にご一任ください。なお、医療系、他で論文形式を採用する方のために「医療系、他原著論文の書き方」を記しましたので参照ください。原稿の採否は編集委員会にお任せください。いずれの原稿も内容や趣旨に変化を与えない範囲内で編集部で校正を加えることがあります。また、外国語の論文も受け付けます。この場合には、ネイティブ・スピーカーによって文章の正確さが確認されていることが必要です。その際には、日本語による題名、著者名、所属名、要旨を添えてください。

投稿規定（2024年３月５日改定）

１　投稿資格

投稿原稿について、筆頭著者は本会会員に限ります。筆頭著者が非会員の場合は、投稿する前に入会をお願いします。ただし、編集委員会による依頼原稿の場合にはこの限りではありません。

２　投稿原稿の種類

投稿原稿の種類は、原著、総説、論説、報告、短報、その他であり、それぞれの内容は以下の通りです。

原著論文　Original Article

ホスピスケアと在宅ケアの知識の発展に貢献する独創的な論文であり、オリジナルなデータもしくは分析に基づいて得られた知見と実践への示唆が論理的に述べられているもの。

総説　Review Article

取り上げた主題について、内外の諸研究を幅広く概観し、その主題についてのこれまでの動向、進歩を示し、今後の方向性を展望したもの。

論説　Sounding Board

ホスピスケアと在宅ケアに関する話題のうち、論議が交わされつつあるものについて今後の方向性を指し示すような著述や提言。

報告　Report

内容的に原著論文には及ばないが、研究の視点が独創的で研究結果の意義が大きく、ホスピスケアと在宅ケアの発展に寄与すると認められるもの。研究報告、症例報告、経験例等を含む。

その他　Other

上記に分類されないが、会員にとって情報的価値の高いと認められるもの。論評、提言、講座、評論、書評、手紙、その他。

なお、原稿の種類は、投稿者の申し出と原稿の内容を確認し、編集委員会が協議し決定します。

Presented by Medical*Online

３　二重投稿の禁止

二重投稿は受け付けられません。問題となりそうな場合には、予め先の論文（原稿）を投稿時に添付してください。そのうえで、二重投稿と見なされないためには、両論文の発行時期・読者層が異なること、それとともに異なる視点から書き直されていること、両論文には矛盾点が全くないことなどが満たされることが要求されます。異なる言語で著す場合等も、単なる翻訳ではなく、これらの条件を満たすことが必要です。なお、後の論文には前の論文の出所を明示します。

４　投稿原稿の電子ファイルでの提出

原稿は「ワード」で記して、図はJPEG形式またはPowerPointで読める形式として、メールでお送りください。手書きの原稿も受け付けますが、タイプ料金の実費を別途徴収します。［手紙］等の短編は手書きでもタイプ料は必要ありません。

５　投稿論文標準要綱

論文形式を採用される方は、「投稿論文標準要項（バンクーバー方式）」に準拠して記してください。すなわち、①題名、著者名、所属、②要旨、索引用語、③本文、④利益相反、⑤謝辞、その他ノート、⑥文献、⑦図表の順とします。要項の詳細は、「医療系、他原著論文の書き方」に示しています。原稿の種類・内容によって適宜、形式を変えてください。なお、表は原稿中に入力して作成し、図形式にはしないでください。図はそのまま印刷できる最終版にしてください。投稿論文標準要綱が守られていない投稿については、投稿を受け付けません。

６　投稿論文の提出期間

投稿原稿の提出期間は、以下のとおりとします。

春号（５月末発刊）：10月～２月

冬号（12月末発刊）：５月～９月

投稿原稿は電子媒体にて過不足なく提出してください。投稿論文標準要綱が守られていない投稿、上記の期限を過ぎた投稿については投稿を受け付けません。

７　査読

原著、症例報告、経験等は、１名または２名のレフェリーによって査読されるものとし、再考をお願いすることがあります。

原則として、投稿締切後から１ヶ月間に査読を行い、投稿者に査読結果をお返しします。

投稿者は査読コメント、あるいは編集委員会の意見に基づいて、原稿の修正をしたのち、修正稿を提出してください。修正期間は14日～１ヶ月の間で指示します。

期限内に修正稿が提出されない場合は、当該号への掲載の見送りと査読手続きの終了を編集委員会が決定し、投稿者に通知します。

８　投稿原稿の校正、印刷

研究会誌発刊の２ヶ月～１ヶ月前から、編集委員会より校正原稿を送付し、校正を依頼します。著者校正は１回です。原稿受け取り後、１週間以内に返送をお願いします。指定期日までに返送のない場合には、編集部校正で処理します。

なお、校正は誤字脱字等の軽微な修正に限り、校正時の内容の変更は認められません。変更の程度に

Presented by Medical*Online

よっては、実費を申し受けます。

9　著作権

掲載された論文は、日本ホスピス・在宅ケア研究会に属し、無断転載はお断りします。著者が自分で使用するのは、この限りではありません。また、査読後論文に限り、自己のホームページあるいは所属機関のリポジトリ上の公開を認めます。その際には、著作権は本研究会に属することを明示し、それに伴う著作権関連規定に則ることとし、その限りにおいて改めて本会の許可を得る必要はありません。なお、論文の出版社版の利用は認められません。

10　論文の見解

論文の見解は、著者の見解で、日本ホスピス・在宅ケア研究会のものではありません。論文の内容・引用文献の正確さ、引用に伴う著作権の問題、その他論文によって生じるいかなる事態も著者の責任に帰せられます。

11　別刷

別刷は、実費となります。著者校正時に別刷注文フォームを提示します。必要部数ほか必要な情報をフォームに入力してください。印刷所の方から手続き、料金その他が手配されます。

12　原稿の送付先

原稿は、下記事務局までメールでお送りください。

メール投稿先：日本ホスピス・在宅ケア研究会事務局　E-mail:kobe@hospice.jp

編集委員

田村眞由美　〒670-8524　兵庫県姫路市上大野7丁目2番1号
姫路獨協大学　看護学部看護学科（編集長）

二ノ坂保喜　〒814-0171 福岡市早良区野芥4-19-34
にのさかクリニック

矢津　　剛　〒824-0001 福岡県行橋市行事7-19-6
矢津内科消化器科クリニック

清水　政克　〒673-0862 兵庫県明石市松が丘2-3-7　松が丘ビル2F
清水メディカルクリニック（副編集長）

岡山　幸子　〒665-0827 宝塚市小浜4-5-1
宝塚市立病院緩和ケア病棟（副編集長）

久保田千代美　〒630-8044 奈良県奈良市六条西2-9-9-4
Chiyomi Kubota Care 研究所

Presented by Medical*Online

医療系、その他原著論文の書き方

1　原稿は、「ワード」で記して、図はJPEG形式またはPowerPointで読める形式として、メールでお送りください。

2　原稿の並べ方は、原著論文では、①題名、著者名、所属、②要旨と索引用語、③本文、④利益相反、謝辞、その他ノート、⑤文献、⑥表、⑦図の順としてください。図表の適切な部位を原稿の間あるいは横に示してください。原稿の種類によって、適宜この構成の中から必要な部分を選んで、原稿に記してください。また、英文抄録を掲載する場合は、200字程度とし、題名、著者名、所属名の英文も添えてください。

3　題名は、論文の内容が一読して分かるようにするとともに簡潔に示してください。複数の著者の場合、すべての著者が論文に対して共同責任あるものと見なされますので、研究に貢献のあった氏名のみを著者としてください。所属長という理由のみで共著者とすることはできません。所属は、研究の行われた施設を示してください。連絡先が筆頭著者ではない場合には、連絡者を明記してください。その他、特記事項を示してください。

4　要旨には、研究（報告）の目的、方法、結果および結論を400字程度にまとめてください。また、３～５語の索引用語を示してください。索引用語は、題名に現れていないもので、研究の内容を示唆する語を挙げてください。

5　本文は、「はじめに」または「緒言」、「方法」、「結果」、「考察」の順に書いてください。

1）「はじめ」「緒言」には、研究の目的を明示することが必要です。関連するすべての文献を網羅する必要はありません。重要文献を目的と関連させて導入としてください。

2）「方法」には、少なくとも他の研究者があなたの研究を再現できるように詳しく書くことが必要です。統計手法も「方法」の最後に記載してください。なお、倫理面における特記では、機関または関係団体の倫理委員会を経ていること、あるいはどのような配慮を行ったかを明記してください。倫理的に問題ある場合は、受付をお断りすることがあります。

3）「結果」においては、「図表」にある数値を、重複してすべて述べる必要はありません。強調したいデータを中心に記載してください。

4）「考察」では、研究で分かった新しい点、あなたの強調したいことを中心に述べてください。過去の研究のすべてを網羅するのではなく、あなたの研究に深い関連のある事柄を中心に必要あれば文献を挙げて論じてください。「考察」の最後に、（結果の繰り返しでなく）研究成果の意義を簡潔に述べることも勧められます。

5）「結果」および「考察」は、論文によっては「結果および考察」としてまとめた方が理解しやすいときもあります。また、それぞれのセクションが長くなる場合には、サブタイトルを付けた方が理解しやすい場合もあります。

6　「利益相反」については、評価に関する論文で扱う薬剤や器機を含む全ての製品において、過去３年間に当該製品の製造・販売元との間に資金的あるいは個人的つながりがあれば、その内容を明らかにしてください。資金的・個人的つながりには、雇用、顧問、株式保持、報酬、謝礼、特許（申請中を含む）、証言料、旅費を含みます。

7　「謝辞」等には、研究には直接関与しなかったものの援助を惜しまなかった指導者、データを得るにあたって協力した人・機関、技術的な援助をした人・機関、あるいは論文を検討・査読した人等、著者が必要と考えたところを入れてください。また、寄付・奨学金等の源は必ず明記してください。その他、研究するにあたり特記事項があれば示してください（先行論文の明示等）。

8　「文献」は、論文の中（図表を含む）に現れた引用順に算用数字で右肩付きで1）、2－4）のよう

Presented by Medical*Online

に示してください。同一文献に異なる番号は振らずに、初出の文献番号を使用してください。文献欄には、著者名. 題名. 雑誌名　発行年；巻：始ページ-終ページの順に記してください。単行本は、単著者の場合、著者名. 本名. 出版社所在地名：出版社名、発行年、（必要あれば：始ページ-終ページ）の順、複数の著者の場合には、その論文の、著者名. 題名. 編者名、本名. 出版社所在市名：出版社名、発行年（必要あれば：始ページ-終ページ）、の順に記してください。雑誌や単行本以外を文献とする場合にも、この順番でそれぞれ明示できる項目を記してください。著者が複数の場合には、６名以内では全員の名前を、それより多い場合は６名まで記して、その他、を付け加えてください。雑誌の略号は、欧文はIndex Medicus の略号、日本文は通称または医学中央雑誌の略号を使用してください。

（例）

1）藤田あけみ、相馬美香子、葛西恵美子、川崎くみ子、成田敏子.大腸癌手術症例のQuality of Life の検討 －病名の認識と告知との関係を中心に－. ホスピス・在宅ケア　1993;1:4-9.

2）大熊一夫. この国に生れたるの不幸－二　冤罪・千葉大学腸チフス事件. 東京：晩聲社、1991.

3）隅谷三喜男. アジアの貧困と疾病. 松村武男、石井明　編、動物・昆虫性疾患と国際交流. 神戸：祥文社、1993:8-16.

4）Rostom AY, Gershuny AR. Access to patient records. Lancet 1991;338:1337-1338.

9　表は縦線を使用せずに、横線のみを使います。表の番号は、原稿に引用される順番に算用数字でふってください。表は、それを見ただけで本文を読まなくとも内容が理解できるように作成してください。表の題名（タイトル）を上に示し、必要あれば詳しい説明を表の下に並べてください。統計結果があれば、表の説明に追加ください。なお、理解し難い略号を使用する場合や数字の単位・表現が通常でないときなど、それを表の中ではａ）ｂ）等と右肩付きで示して、表の下にａ）ｂ）等で説明してください。

10　図は、原稿に引用する順番に算用数字で番号をふってください。手書きの図は受け付けません。そのままで印刷できるように明瞭に作ってください。図の説明書きは図とは別に原稿の最後にまとめてください。表と同様に図の説明にも配慮してください。ファイルはJPEG形式またはPowerPointで読める形式にしてください。カラー印刷は特別料金となります。なお、口頭発表と誌上発表は異なります。原稿では、文章化しても分かるものは本文中に文章として載せます。また、スライドと誌上では、図のバランスが異なることに留意ください。

11　［短報］は［原著］の書き方に従って書いてください。［症例報告］、［経験］等は、「方法」と「結果」のセクションに、症例・経験の説明が入ることになります。他は［原著］に準じます。

12　論説、総説、提言、評論、手紙等は、［原著］の形式の中からそれぞれに必要な項目を、［原著］に準じて著者が適当と思われるまとめ方をしてください。［講座］等で長くなる場合には、複数号にわたって掲載することも考慮します。

13　交流会報告、カンファレンス記録等は、適宜形式をとってください。この「原稿の書き方」にそぐわない論文は自由形式で書いてください。

14　原稿（論文）作成にあたっては、最新の「ホスピスケアと在宅ケア」を参照することをお勧めします。もし、不慣れな件（統計処理等）があれば、躊躇なくお問い合わせください。

15　自由なイラストや写真（白黒）も募集しています。メールでお送りください。

16　不明な点は、編集委員まで、遠慮なくお問い合わせください。

Presented by Medical*Online